



## 浦田弘二町長の政権公約を紙面初公開！

# ローカル・マニフェスト

田川青年会議所(JC)から福智町のみなさんへ



↓町長選を間近に控えた昨年3月、田川青年会議所主催で行われた「公開討論会」。候補者2人がローカル・マニフェストを公の場で発表しました。



地方選挙の際に候補者が地域の目指す姿を掲げ、その実現のための目標を具体的に示す「ローカル・マニフェスト」。有権者であるわたしたちは、候補者が当選後にそれをどれだけ達成しているか、評価・検証しなければなりません。そのためには、まず自分たちのまちの町長のローカル・マニフェストを知ることが必要です。

### 個別重要施策5項目

## 1

### 教育改革

期限	2014年3月
事業費	3億2千万円 (8千万円×4年間)
財源	単費

成果：少人数授業の継続実施により、児童生徒の学力を全国平均レベルまで向上させる。地域全体で子育てに対する課題を共有することで、個々ではない解決に向けた対応が可能となる。

手法：▶少人数授業の継続実施（現在全校で実施中、8,000万円／毎年度）

▶家庭の教育向上の取り組みを推進する。

行政や教育委員会が働きかけて、各小学校区毎に「子育て地域委員会」を設置する。区域内の子育てに関する課題を出し合い、それぞれの解決に向けて、当該家庭との協議をする中で方策を講じ、家庭の教育向上につなげていく。委員会のメンバーは、小中学校教職員、保護者、地区公民館代表、民生児童委員、教育委員会、行政関係者等とする。

## 2

### 入札改革の継続

期限	2012年3月
事業費	
財源	

成果：公平、公正、公開のまちづくりと不正防止に資するとともに、工事予定額の8%が削減できる。

手法：▶電子入札制度、総合評価方式の導入を検討し、2011年度中には、その準備作業を完了する。

▶公正、公平な事業発注のため、予定価格の事前公表廃止等の工夫改善を図る。

▶一般競争・指名競争入札の工事金額の仕分けを見直し、範囲の適正化を図る。

## 3

### 地域コミュニティづくりの推進

期限	2014年3月
事業費	8千万円 (2千万円×4年間)
財源	単費 ※合併特例債基金 利子を充当。

成果：住民間に、相互扶助の意識を育てるとともに、新しいまちづくりの基盤となる福智町としての一体感を高めることができる。

手法：▶町全体での行事の開催を推進する（体育祭、文化祭、商工まつり、成人式、各種スポーツ行事）（開催費1千万円／毎年度）

▶各行政区に福祉委員、安全推進委員を配置する。（活動費1千万円／毎年度）

▶広報紙を活用し、町内各地域の人やものの情報を最大限住民に伝えていく。

## 4

### 農業振興による中高齢者の生きがい・健康づくり

期限	2013年3月
事業費	2億円
財源	過疎債

成果：中高齢者の働く場づくりと食の安全確保が可能となる。また、中高齢者の健康づくりにも効果が期待され、介護予防の有効手段となる。

手法：▶有機農業の推進を図り、野菜、米、果物等のブランド化を目指す。特に、米については福智山麓の棚田米として、また歴史のある赤池梨も更なる工夫改善をしてブランド化を図る。

▶大型農業施設(用地費3,000坪とハウス一部)の建設により、雇用の場を確保するとともに農業の活性化を図る。また、雇用の対象は中高齢者を中心に、農作業を通して健康づくりに資する。運営は住民とりわけ農業者に委託。

▶行政が中高齢者対象の小規模農園を確保し、生きがいや健康づくりに活用。

▶住民からアイデアを募り、米、野菜、果物等の需要拡大や販路の拡大を図る。

## 5

### 観光のまちづくり

期限	2014年3月
事業費	2億5千万円
財源	過疎債

成果：雇用の創出と共に、交流人口の増加が期待できる。また道の駅を情報の発信地、都市住民との交流拠点として活用できる。

手法：▶町内の観光資源(温泉、上野焼、加工品、果物、名所旧跡等)の有機活用を図る。

▶道の駅「こだわり物産館」を建設して、有機農産物、果物をはじめ町民の人たちの加工品や手芸品等を展示販売する。

▶道の駅と既存の朝市やふれあい市との連携を図り、ネットワーク化を推進する。

**浦田弘二町長**  
約18年間旧赤池町で教育長を務め、平成17年に旧赤池町長、平成18年に福智町長に就任。平成22年3月から2期目の町政の舵取りを担っている。

### 浦田弘二町長に聞くローカル・マニフェスト

#### ローカル・マニフェストに込めた思い

住民のみなさんとお約束したこのローカル・マニフェストは、町政を行うにあたり、各施策がどの程度、どういう方向で進んでいるのかを再確認するなど、自分自身を振り返るための重要な要素にもなっています。今年3月の東日本大震災のようなさまざまな社会的要素や影響により、財源の確保や期限の遅延など、必ずしもすべてが当初の予定どおりにいくとは限りません。しかし、みなさんとお約束した以上、常に「これだけはやる!」という意気込みで職務にあたり、今後もできる限り達成する努力を続けていきたいと考えています。

#### 当初の予定と現在の状況を振り返って

重要施策として掲げた5項目(左記参照)には、進行が遅れているものもありますが「③地域コミュニティづくりの推進」「④農業振興による中高齢者の生きがい・健康づくり」「⑤観光のまちづくり」の3項目については、それぞれの組織が立ち上がり本格的に動き始めました。また「①教育改革」については、1期目から取り組んでいた項目で、少しずつではありますが状況は改善されてきたと考えています。「②入札改革の継続」については、電子入札制度や総合評価方式の導入など、なかなか実現に至っていないこともありますが、なんとか公平・公正な入札が行われるよう、工夫しながら取り組んでいきたいと思っています。

### ローカル・マニフェストの構成

- 1 現状確認
- 2 10年後のビジョン
- 3 重要個別施策
- 4 2年後のビジョン
- 5 4年後のビジョン

ローカル・マニフェストは大きく分けると「基本理念」と「重要施策項目」に分かれ、候補者が自由に作成するものではなく、あらかじめ用意されたひな形にそって、左の手順で作成します。「基本理念」では、現状認識と将来のビジョン、「重要施策項目」では、候補者が最も重要と思われる上位5つの施策について明記します。

### マニフェスト・サイクル

ローカル・マニフェストは、作成後、上記のように展開することが理想とされており、このような流れを「マニフェスト・サイクル」といいます。住民が主権を持ち、行政と共に良いまちにしていくというマニフェスト・サイクルのイメージ(ビジョン)を持つことが大切です。

詳しくは田川JCの  
今月号の折り込みを  
ご覧ください!

19 FUKUCHI

FUKUCHI 18